

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における新東淀中学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年4月から令和7年7月末までの期間に、2年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第2学年、中等教育学校第2学年、義務教育学校後期課程第2学年、特別支援学校中学部第2学年の原則として全生徒
- ・新東淀中学校では、2年生 200名

3 調査内容

- ・生徒に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
中学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ（※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択）

イ 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査を実施する。

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立新東淀中	学校	生徒数	200
----------	----	-----	-----

平均値

2年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	32.56	25.36	44.12	54.70		77.59	7.97	203.46	24.03	44.88
大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80		80.14	8.06	195.02	20.28	41.69
全国	28.95	26.09	45.12	51.64		78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
女子	23.53	23.24	44.94	46.20		54.67	8.76	164.28	12.21	49.57
大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59		53.12	9.03	166.76	12.20	48.14
全国	23.15	21.70	46.99	45.74		50.60	8.97	166.44	12.43	47.58

結果の概要

- ・男子においては全体的に全国平均並みか、それ以上の結果を残した。ただ、上体起こし、長座体前屈、シャトルランについては平均より低い結果が出た。筋力や柔軟性、持久力において課題が明らかとなった。
- ・女子は長座体前屈、立ち幅跳び、ハンドボール投げについては、平均よりは低い結果が出た。男子と同じく、柔軟性や跳躍力において課題が明らかになった。
- ・「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問に対し、男子は全国平均より上回る、好きと肯定的に答えた生徒が、96.5%、女子は平均より低い結果の67.5%であった。
- ・1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合が、全国平均で男子8.4%、女子21.4%に対して、男子5.2%、女子16.9%と上回り、体を動かす時間を確保できている生徒が多い結果となった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

・毎回の体育授業で、ランニング・トレーニング・ストレッチを行い、継続的に基本的な運動能力の向上に努めた。その結果、体力向上につながり、全国平均よりも良い結果となった。

・体育の授業では個々の能力に応じた課題を設定し、その課題を解決するために、自分が何をやるかなどを考えて、自分で取り組むことで、達成感や充実感を味わうことができ、運動が好きな生徒が増え、運動時間を確保することにつながった。ただ、男子のデータから、筋持久力・柔軟性に課題があることが分かったので、今後の体育授業で克服できるよう内容を工夫し、授業を展開していかなくてはならない。